



2021 APRIL 4 レース鳩

Vol. 745 THE RACING PIGEON

特集 / 八郷・国際ダービー400K&国際親善鳩レース大会500K ルポ
伊賀・国際サクセス200K ルポ
国際ウィナー300K&連合会対抗300K 速報

連載 / グランヒストリア — GN攻略法&スピンオフ 第1弾
グロリアス第6弾 — 農林水産大臣賞&衆議院議長賞



20年秋兵庫県連盟レース総合優勝1回&最高分速2回

“ニック・パルフェ号” 20XB07356 BC ♀

吉田 章鳩舎(兵庫県・神港連合会)作翔

市振 オータムレース400K	352羽中	総合優勝(分速 1,275.266m)
津幡 地区合同レース300K	542羽中	最高分速(分速 1,399.872m)
金津 地区合同レース200K	1,103羽中	最高分速(分速 873.623m)

20年秋兵庫県連盟オートムレース総合優勝、300K最高分速、200K最高分速

- “ニック・パルフェ号”
 20XB07356 BC ♀ 吉田 章鳩舎 作翔
 全兄弟／19年春兵庫県連盟200K連盟5位
- 09HF33661 BC 渡辺 正作
 - 07HF37697 BC 渡辺 作
 - 00年サンパンサンN最高分速“デンベック”×
 - 01年サンパンサンN最高分速“マキシマ”
 - 07HF37888 B 渡辺 作
 - 03年サンパンサンN最高分速“レコードブレーカー”×
 - 02年サンパンサンN最高分速“マリオン”
 - 14DA04600 BC 野中 博作
 - 06DA34608 BC プリモロフト 作
 - 97年ダックスN155位“ゴールデンボーイ”×
 - 00年パルセロナN優勝“ミス・パルセロナ”
 - 06LH02780 RC SONO LOFT 作
 - 01年パルセロナIN2位・N優勝“フェニックス”×
 - 02年パルセロナIN優勝“ソフィア”

表紙の鳩

若鳩で3レース連盟制覇！ここに「神鳩」爆誕！

1羽の若鳩で200K、300K、オートムレースのトリプル制覇！

吉田 章鳩舎(神港連合会)

異論などない

歴代最高の若鳩

鳩レースの本場・ベルギーを含め世界鳩界で最も評価を受けているレース鳩とは何か。異論はあるかもしれないが、それでもあえて書く。エースビジョンである。

そして昨秋、“若鳩”というカテゴリーでみれば、世界、そしておそらく日本鳩レース界史上最高クラスのレース鳩が誕生した。その名は“ニック・パルフェ号”。規程上、短距離2レースは最高分速という表記になるが、200K、300K、連盟公称4

00Kレースで実質総合優勝3回という離れ業を成長過程であるがゆえの不安定な若鳩で、なおかつ山越え必須のルート上で演出したのだ。

作翔者は吉田章氏。17年秋からの“再開組”で、高校と大学時代にレース経験があるだけで、新人に限りなく近いキャリアだった。それでも地元元重鎮・泉谷隆氏に師事し、競翔家として昨秋は

“ニック・パルフェ号”以外でRgを除いた全レース総合シングルに入賞させた上、今春の200Kを制覇。また作出者としてはすでに総合優勝鳩を2羽誕生させている。ゆえに師匠は、同氏のセンスに対し太鼓判を押しているようだが、吉田氏に天賦の才があるうとも、1羽の鳩、しかも若鳩でこの境地までたどり着けるだろうか。

同氏曰く、師匠のお膳立て——200K前に行った泉谷氏との合同訓練が覚醒のトリガーになったと思っ

ようだが、それでも5分程度の舎外が15分になったくらい。勝因として挙げられるには説得力は弱い。つまり鳩自身の能力以外の何ものでもない、と言うことだ。しかも200Kは耐久戦で300Kは高分速戦、オートムレースは実力戦と、3レースの展開はバラバラである。あと1つエピソードを加えるなら3戦目のRgで状態を大きく落としての復

活劇！ゆえに“ニック・パルフェ号”は銘鳩、いや超銘鳩を超えたもの。“神鳩”といって過言ではない。筋肉は非常に発達していて弾丸のようなボディ。俗にいう“つまっている”トリであり、スピードバードに典型的なフォルムをしている。

鳩体的に“ザ・短&中距離バード”であることから、周囲に“主力系統のヤンセンか？”と聞かれていたほどである。しかしバックボーンは超長距離系。サンパンサンN最高分速4羽、パルセロナN優勝3羽(※IN優勝2羽)のそれぞれ曾孫だ。

素材としては確かに最高血統であるが、距離適正はマッチしていない。若鳩時での覚醒を含め、進化の証明——“突然変異”の可能性は大である。ともあれ兵庫県、いや近畿鳩レース界全体がざわついた壮挙

もに“ギギナーズラック”と認めるところのようだが、運だけで1羽のヤングスター(※若鳩との意)が、短・中距離とはいえ連盟4レース中3レースを制することは、ありえない。

日本鳩レース界最高の若鳩——“ニック・パルフェ号”。神鳩の誕生に異論はない。

連盟制覇3回“ニック・パルフェ号”の作翔者・吉田 章氏へのコメント

★泉谷 隆氏(神港・ひよどり系形成者 / 右端)「自鳩舎で3回トップに来させるだけでも難しいのに、1シーズンで連盟のトップをとるとは、ホンマに素晴らしいレーサーだと思います。第一印象はとにかく肉質が他のトリと全くちがう。びっくりするほど(筋肉が)張っています。これが1番の良さだと思いますね。また血統も長距離系なのに近い距離で成果を上げたことは魅力的です。そもそも鳩レースの醍醐味は系統作りだと私は思っています。これからこのGHを基礎にどうしていくか。少なからずこの連盟制覇3回のトリは、ウチの“ハリー”の孫で総合優勝も出ている種鳩と交配するようす。直仔、孫、曾孫でいかに飛ばせるかが、吉田さんのこれからの課題ですね」

★大森幹雄氏(神港・左端)「“ニック・パルフェ号”は手持ちがいいし、若鳩とは思えないほど体ができていました。正直、うちの1番(いい鳩)と比べて、「これは勝てない」と思いましたね(笑)。吉田さんとはほぼ同期ということもあり、ライバルです。昨秋は私もRgでシングルに入りましたが、吉田さんの凄さに比べればまだまだ。しかしモチベーションはあがりましたよ。今秋、来春はもっといい鳩を作って負けられないように頑張ります」

★松村春樹氏(神港・左から2人目)「私も吉田さんと再開のタイミングがほとんど同じで、レースは20年の秋からスタートしました。300Kで連盟4位に入りましたが、吉田さんは3レース制覇。しかも1羽の鳩で、です。早くも速いところに行ってしまいましたね(笑)。吉田さんと大森さんと違って私は不肖な弟子ですので、泉谷さんによく怒られてます。それでも師匠の教えを体現し、彼らに少しでも近づけるよう頑張ります」



※左から3人目が吉田 章氏。

吉田 章鳩舎(神港連合会)